

主な質問項目

- 大阪万博誘致 ■ 災害に強い大阪へ
- 教育、福祉、人権 ■ いのち、暮らしを守る
- 大阪の発展とにぎわいづくり
- 行政のあるべき姿 など

徳永 慎市
(府議団政務調査会長)

2025大阪万博誘致に向かって

いのち輝く未来
社会のデザイン

万博誘致を契機に府民の健康寿命延伸に取り組むべき!

Q. 徳永議員 「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマの大阪万博誘致を契機に、府民一人ひとりの主体的な健康づくりとそれを支える社会環境の整備を進めていかなければならない。府民の健康指標の改善・向上が図られるよう、医療保険者等の関係機関との連携・協働による効果的な取り組みが必要と考えるが、今後の方針について問う。

A. 健康医療部長 策定中の健康増進計画では「健康寿命の延伸」を目標に掲げ、がんや循環器疾患等の生活習慣病の予防対策等とあわせ、健康づくりに取り組む企業や地域への支援など社会環境の整備を進めてまいります。他府県より低い健診受診率の向上や特定保健指導の強化等を重点に市町村や医療保険者、企業等、オール大阪の推進体制のもと、効果的に取り組んでいきます。

テーマ先取りのビジョン策定検討状況は?

Q. 徳永議員 誘致活動を好機と捉え、全庁あげて取り組みを進めて行く必要がある。府民の豊かな生活実現への取り組みをオール大阪で展開するために、全庁横断的な組織として「万博誘致推進本部」を設置し、万博のテーマを先取りのビジョンを策定とのことだが、現在の検討状況や今後の取り組みはどうか。

A. 政策企画部長 庁内各部署、府内市町村、経済団体等と意見交換を行うなどビジョン策定を進めており、その「中間とりまとめ」では「健康な生活」「活躍できる社会」「未来を創る産業・イノベーション」の3つをめざす姿に掲げ、実現への方向性と行政等の取組事例を盛り込んでいます。今後は議会等のご議論、有識者等との意見交換を深めるなど、年度末の成案化に向けて内容の充実を図っていきます。

ユニバーサルデザインの普及促進

行政が率先して取り組み、庁内の周知を… メディアユニバーサルデザイン^(※)

Q. 徳永議員 色覚障がいのある方に情報を確実に届けるためには、メディアユニバーサルデザイン^(※)の普及促進が必要で、まずは行政側が率先して取り組むべき。庁内におけるホームページや印刷物の作成にあたっては、メディアユニバーサルデザインに関するガイドライン等を示し、各部署の取り組みを確認しつつ庁内の周知徹底を図る必要があると考えるがどうか。

(※メディアユニバーサルデザインとは「文字の使い方」や「色の使い方」など印刷物を中心とする様々なメディアの見やすさ、分かりやすさを向上させるデザインの考え方。)

A. 府民文化部長 府では平成23年9月に福祉部、住宅まちづくり部との3部署共管で「色覚障がいのある人に配慮した色使いのガイドライン」を作成。各部署において広報物の作成に配慮し、関係団体等にも働きかけなどを行っています。

外国人観光客急増 ユニバーサルデザイン行動計画が急務!

Q. 徳永議員 大阪を訪問する外国人観光客は531万人と過去最高を更新(今年上半期)。さらに今後、東京でオリンピック、パラリンピック(2020年)、日本万国博覧会(2025年)の大阪誘致も進めている中、それにふさわしいユニバーサルデザインの社会づくりは急務である。府においても、部局横断で指針となるユニバーサルデザイン行動計画を作るべきだと思うが、いかがか。

A. 松井知事 府でこれまで実施してきたユニバーサルデザインに関する施策の点検を行うとともに、国が策定した「ユニバーサルデザイン2020行動計画」も踏まえ、府としての行動計画について検討します。

咲洲庁舎のあり方 咲洲庁舎の空きフロアにホテル

Q. 徳永議員 咲洲庁舎の7階から17階までの空きフロアについて、今年8月に(株)リコジャパン(堺市)、(株)西辻工務店(和泉市)が入居事業者決定し、今後、両社が共同で新会社を設立しホテルを運営予定とのことだが、咲洲庁舎の管理費はどのように変わるのか。また、今後の咲洲庁舎の空きスペースの活用計画はどうか。

A. 総務部長 現在、咲洲庁舎の府の実質負担額は年約6.9億円であり、ホテルオープンに伴い光熱水費等の維持管理費が約1.9億円増えるが、賃料等収入が約6億円増え、実質負担額は約4.1億円の縮減で年約2.8億円になると見込んでいる。18階以上では府と民間テナントが混在する中に空きスペースが存在し、まとまった使用が難しいことから、府の使用部分を中層階に集約し、高層階を民間のフロアとし、新たな入居者募集を行っています。

徳永議員から要望 咲洲庁舎部局の大手前地区への集約を!!

241億円の修繕費・費用負担で コスト高の二庁舎併存から撤退すべき!

Q. 徳永議員 庁舎のあり方については大手前集約、咲洲集約、二庁舎併存の3案があり、最もコスト高の案が二庁舎併存案だったように記憶している。府は咲洲庁舎の大規模修繕について、購入時の推計では約241億円(平成21年度から53年度まで)と試算しており、やはり二庁舎併存は費用負担が一つの庁舎に集約する案より大きい。咲洲庁舎の部局を大手前地区に集約すべきだ。

A. 松井知事 咲洲庁舎の部局を大手前に集約することは、今は考えていません。引き続き、テナント誘致に全力で取り組むとともに、ベイエリア活性化の司令塔の役割を担っていきます。

大阪を盛り上げ、暮らしを守る、行政のあるべき姿へ

